

横浜市立金沢動物園

ニホンライチョウが死亡しました

金沢動物園で飼育を開始したニホンライチョウ(メス)が死亡しましたので、お知らせします。

1 死亡したニホンライチョウについて

- (1) 性別：メス
(2) 年齢：2歳
(令和3年7月13日
富山市ファミリーパークで孵化)
(3) 死亡日：令和6年2月23日(金)
8時30分に死亡確認
(4) 死因：現在のところ不明



2 経過

(公社)日本動物園水族館協会が環境省と共同で行う第2期ライチョウ生息域外保全実施計画に基づき、令和6年2月22日(木)に金沢動物園への移動が実施されました。

今回の移動は、ライチョウへの負担軽減を考慮して所要時間が短い新幹線を利用しました。富山駅にて、輸送用のケージに入った個体を富山市ファミリーパーク職員から金沢動物園職員が受け取ったあと、上野駅まで運びました。上野駅で車両に乗り換え金沢動物園まで移動しました。個体の受け取りから金沢動物園到着までの所要時間は4時間半ほどで、移動中は個体に大きな変化は認められませんでした。金沢動物園到着後は個体を輸送用ケージから飼育用ケージに速やかに移し、移動を完了しましたが、翌2月23日(金)8時30分に死亡を確認しました。

死亡当日、当園獣医師による解剖を行いました。肉眼的所見では死因を特定できませんでした。今後外部機関にて臓器の組織学的病理診断や糞便からの細菌検査等を実施予定です。

今回の経緯を他のライチョウ飼育施設と共有し、今後の管理技術向上に役立ててまいります。

金沢動物園



指定管理者：(公財)横浜市緑の協会



お問合せ先

金沢動物園 園長 小國 徹 TEL045-783-9400

【参考資料】

1 ニホンライチョウについて

和名	ニホンライチョウ
英名	Japanese Rock Ptarmigan
学名	<i>Lagopus muta japonica</i>
分類	キジ目 キジ科
分布	高山帯に隔離分布しており、現在の分布域は頸城山塊、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプス
生態	本州中部の高山帯に生息するライチョウの亜種です。ライチョウの亜種の中では最も南に分布しており、氷河期に日本まで分布を広げたライチョウの祖先が、その後の温暖化とともに気温の低い高山に生息の場を移して、現在まで生き残ってきたものと考えられている。 日本の高山の環境によく適応し、高山植物の芽や葉、種子などを食べ、ハイマツの下に巣を作って繁殖する。
環境省レッドリスト	絶滅危惧 I B 類 (EN) 絶滅危惧 I A 類 (CR) ほどではないが、近い将来における野生での絶滅が極めて高い種
当園飼育数	1羽(オス1) ※死亡個体を含まず
国内飼育園館	8園館 富山市ファミリーパーク、恩賜上野動物園、大町山岳博物館、那須どうぶつ王国、いしかわ動物園、長野市茶臼山動物園、横浜市繁殖センター(動物は非展示)、横浜市立金沢動物園

2 金沢動物園について

- ◆入園料：一般 500 円、高校生・中人 300 円、小・中学生 200 円、小学生未満無料
(毎週土曜日高校生以下無料)
※よこはま動物園・金沢動物園共通年間パスポート 18 歳以上 2,000 円
- ◆開園時間：9:30～16:30 (入園は 16:00 まで)
- ◆休園日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、12/29～1/1
- ◆交通：京急線「金沢文庫」駅下車、西口バス乗場でバスに乗車
①「野村住宅センター」行きバス「夏山坂上」下車徒歩 6 分
②急行「金沢動物園」行きバスで 10 分(土・日・祝のみ)
- ◆URL：<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/zoo/kanazawa/>
- ◆住所：横浜市金沢区釜利谷東 5-15-1
- ◆問合せ先：045-783-9100